

ベトナム海外イマージョン研修	
日時	8月1日(火)7:50~8月5日(土)12:00
場所	ベトナム
参加者	2年生 8名
講師等	在ホーチミン日本国総領事館 総領事及び領事・副領事 カイゼン吉田スクール職員及び学生 ホーチミン日本商工会 職員 東部国際大学職員及び学生
目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 在ホーチミン日本国総領事館・日本商工会等の訪問を通して、日本の国際的支援の役割を実感する。 ○ 日本企業がJICAの支援を受けて進めている、ベトナムでの交通を中心とした「新しい街づくり」を見学し、日本の技術や運用方法がベトナムで活用されている実態を学ぶ。 ○ 孤児院の訪問を通し、ベトナムの要保護児童を取り巻く環境や教育現場・施設の現状などについて学ぶ。 ○ 戦争証跡博物館を訪問し、数多くの貴重な資料に触れ、ベトナムの歴史・ベトナム戦争について学ぶ。 ○ 現地の学生とディスカッションや文化交流を行い、日本にどのようなイメージを抱いているのかを知り、どのようなビジネスパートナーとなりうるのかを考え、論理的思考力・コミュニケーション力・幅広い教養を育て、次世代ビジネスリーダーとしての素養を身につけさせる。 ○ 帰国後、成果を同学年の生徒や後輩に発表することで学校全体の課題研究の質を向上させる。
活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ ベトナムにおける日本の関わり方やベトナムの社会・歴史・文化について学ぶ。 ○ 生徒は各自課題意識をもって事前にテーマを設定している。 (テーマ例) <ul style="list-style-type: none"> ■ 「ベトナムにおける教育」 ■ 「現地の学生のベトナム及び日本に対する価値観を知る」 ■ 「現地のスーパーからローカルな市場傾向を調査」 ■ 「ベトナムの要保護児童と児童施設」 ■ 「日本の文化がどのように取り入れられているかを学ぶ」 等 ○ 現地滞在中は各訪問先でお話を伺うと同時に、調査(現地の市場やデパートで実際に買い物をし、現地の方々と交流し実地調査)やインタビュー(交流した学生に対して)を行い、理解を深めた。 ○ 帰国後、報告会や研究発表会において本研修での成果を発表した。

内容

事前学習

- 『物語ベトナムの歴史』(中公新書)を読んでベトナムの歴史等について学習。
- 青年海外協力協会(JOCA)の講師による、青年海外協力隊員(JICA)の活動についての講演を聞く。

8月1日(第1日目)

- 成田空港よりタンソンニャット国際空港へ(VN301)
現地ガイドと合流し、専用車で移動。



- 戦争証跡博物館

ベトナム戦争について学ぶ。屋外に展示されている実際に使用された戦車や戦闘機、今も残されているギロチン、室内に展示されている膨大な写真や記録資料を見学。日本の博物館ではあまり見られないような、リアルな展示や悲惨な状況を捉えたカラー写真などから、生徒たちは戦争の残酷さや歴史の重みを感じていたようである。



- サイゴンスカイデッキ

ホーチミン市内の様子(緑や工事中が多い場所や日本が建設した橋、サイゴン川が大きく蛇行しながら市内を流れていることなど)を観察。フロアを一巡する間に空が暗くなり、都市発展の息吹を感じさせる市内の夜景を一望できた。



- ミーティング

ホテルのカフェテリアにて、1日目の研修の振り返りと共有。翌日の行程の確認。戦争証跡博物館で目の当たりにした、戦争の悲惨さや残酷さが強烈に印象に残った生徒が多いようであった。

8月2日(第2日目)

○在ホーチミン日本国総領事館 訪問

領事館の職務内容から、ベトナム国内で経済向上を目的として日本がどのような支援を行っているのかまで、総領事・領事・副領事から直接幅広いお話を伺うことができた。「草の根・人間の安全保障無償資金協力」「ベトナム・日本人材協力センター(VJCC)」などの活動についての講義。ベトナムの発展には著しいものがあり、今ではアフリカのモザンビークがベトナムに支援の依頼をしているというエピソードに生徒たちは驚いていた。生徒はそれぞれの研究テーマに基づいて質疑応答を行った。



○カイゼン吉田スクール 訪問

日本で働きたい人のために、日本語・文化・会社のビジネスマナーなどについて教える専門学校の授業を見学。その後、休み時間を利用して、本校生徒が各自の研究テーマの課題解決のため学生のみなさんへ各自インタビューさせていただいた。学生さん方のモチベーションの高さ、日本で働きたいという強い熱意があふれており、生徒たちは皆圧倒されていた。



○ベンタイン市場見学

観光客で賑わいをみせ、売り手の言い値をいかに値切るかが大切なベンタイン市場。アオザイや手作りの工芸品などの土産物店がずらりと並ぶ。現地の熱気を肌で感じつつ、アオザイのバリエーションやカラーについてアドバイスを受けるなどお店の方との交流を楽しんだ。



○デパート(高島屋)・ナイトマーケット見学

高島屋では実際に売られている商品の価格や品揃えを見て回り、日本との比較をして実地調査に励む生徒もいた。日本の商品・出店も多い。夕食後はナイトマーケットを見学し、日中とは違う空気や熱気を体感した。



○ミーティング

ホテルのカフェテリアにて、

2日目の研修の振り返りと共有。翌日の行程の確認。

生徒の振り返りではカイゼン吉田スクールの学生さん方のモチベーションの高さに圧倒され、自分自身の姿を再度改めて振り返るべきだと感じたという声が多く挙がった。



午前中に訪問した総領事館については、日本が草の根レベルでベトナムに対し多くの小規模支援を行っているという事実や、「豊かになったベトナム」という一面も知ることができ、無意識のうちに自身が先入観に囚われていたことに気付いたという反省も挙がった。

8月3日(第3日目)

○ホーチミン日本商工会 訪問

ベトナムの概要・歴史・経済といった基本的な知識について学んだほか、日本とベトナムとの関わりやベトナムの発展に対する日本の貢献、なぜ日本企業がベトナムを進出先として選ぶのか等、ビジネスの観点からベトナムについての理解を深めた。リアルなビジネスの世界で活躍されている方のお話を伺う絶好の機会であり、活発な意見交換の場となった。



○孤児院 (Que Huong Charity Center) 訪問

ベトナムの要保護児童を取り巻く環境や教育現場・施設の現状などについて学ぶ。これまで340人にもものぼる孤児たちを守り、育ててきた施設を実際に見学させていただいた。教室を回り、子供たちと触れ合うこともできた。また食料・衣類などの物資がいかにか不足しているか、切実な現状についてのお話も伺った。実際に各自が日本から持参したお米や衣類をお渡しした。生徒は毎日の生活や使用している教材・教具などについても積極的に質問を重ねていた。最後には訪れた証として一人ひとりに氏名入りの訪問証をいただいた。



○伝統工芸品の調査・水上人形劇鑑賞

ベトナムの伝統工芸品の一つである漆器を実際に作る工程から見学。また水上人形劇を鑑賞し、ベトナムの伝統文化に触れ理解を深めた。



○ミーティング

ホテルカフェテリアにて3日目の振り返りと共有。午前中に訪問した日本商工会での、ビジネス展開や日本の技術に対するベトナムの信頼感などについてのお話が印象に残った生徒が多い様子だった。また午後には訪問した孤児院では施設の清潔さや子どもたちの人懐こい様子など気づきもあったが、同時にストリートチルドレンの多さや物資の不足など厳しい現実を改めて目の当たりにし一人ひとり深く考えさせられたようだった。

8月4日(第4日目)

○東急ビンズンガーデンシティ 訪問

東京急行電鉄とベトナムの不動産会社 BECAMEX の合弁会社である「BECAMEX TOKYU CO.,LTD」(ベカメックス東急)により進められている都市開発の一端を見学。東京ドーム二十数個が入る約 110 万平方メートルの街区で、高級マンション、オフィス、商業・娯楽設備を整備している。SORA gardens 受付でジオラマを見せていただいた後、開発途中の MIDORI PARKを実際に歩いて見学。美しい街並みや整備された公園、豊かな緑が印象的で、日本の技術が遠く離れたベトナムの地での都市開発に関わっていることに生徒たちは感銘を受けた様子であった。



○東部国際大学(Eastern International University) 訪問

大学生による簡単なキャンパスツアーで大学施設を見学した後、互いの国の文化を紹介し交流した。本校生徒が日本舞踊を披露した後、日本からは茶道・書道・浴衣の着付けを紹介し、体験した大学生には大変喜ばれた。最後には交流の証として記念品(①本校生徒と大学生が一人ずつ厚紙にフィンガープリントを施して作った木のイラスト②大学生がこの日のために準備してくれていたイラスト)を贈られた。互いに母語ではない英語を使って一生懸命にコミュニケーションをとり交流する姿が随所で見られ、生徒たちにとってはまたとない国際交流の機会となり、大きな刺激を受けたようである。



8月5日(第5日目)

○タンソンニャット国際空港より成田空港へ早朝 帰着 (VN300)